

マイクロRNAを用いた悪性胸膜中皮腫の治療

呼吸病態学 和泉弘人

利用分野

アスベストの曝露によって胸膜の中皮細胞から発生する悪性の腫瘍（悪性胸膜中皮腫）を核酸医薬により治療する方法を提供する。現在は、手術を中心に、抗がん剤による化学療法や放射線療法を組み合わせた「集学的治療」が代表的である。

シーズ

悪性胸膜中皮腫細胞で発現が低下しているマイクロRNAであり、このマイクロRNAを細胞内で過剰発現させると中皮腫細胞の増殖能を低下させることができる。このマイクロRNAを細胞に導入することで、核酸医薬としてのあらたな治療法が可能となる。



ニーズ

悪性胸膜中皮腫の悪性度は極めて高いにも関わらず有効な薬物療法がない。また、外科的治療は容易ではなく、たとえ切除ができて術後のQOLが低下する。さらに、再発率が低くないことが問題となっている。

連携分野

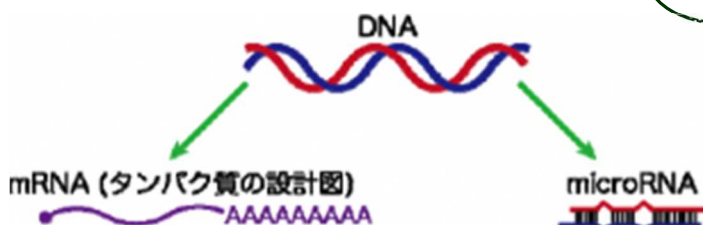
- ・核酸医薬の開発に取り組む企業とのコラボ
- ・核酸のDDS技術を有する研究機関とのコラボ



知財保護

特許第7417247号

中皮腫の予後は、平均1.3年前後で極めて不良



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp